

令和2年度 南アルプス市 まち・ひと・しごと創生審議会 議事録

日時 : 令和3年1月13日(水) 13:30~15:00  
場所 : 若草生涯学習センター あやめホール  
出席者 : 別紙  
議題 : 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランについて

次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプランについて

資料1 第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略

資料2 第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
アクションプラン(案)(個別施策工程表)

資料3 第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
アクションプラン掲載事業一覧(案)

参考資料1 第1期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
アクションプラン記載事業一覧

4 その他

5 閉 会

司会進行：事務局（政策推進課課長）

司会：本日はお忙しい中、ご参集いただき感謝申し上げます。次第に沿って進めていく。まず、内田総合政策部長より、ご挨拶を申し上げます。

## 1 開 会（総合政策部 内田部長）

本日は足元の悪い中、ご参集いただき誠に感謝申し上げます。

まち・ひと・しごと創生戦略に基づくアクションプランについて、今年度から第2期がはじまるということで、5年間計画のアクションプランを作成させていただいた。この、プランの内容については、本来であれば令和2年度当初にご説明をしなければならないところ、コロナの影響のため、審議会の開催時期を見送っていた。近頃においては更にコロナの影響が拡大しているところではあるが、今年度からの計画のため、本日も説明をさせていただいたうえで、委員の皆様ご意見を賜りたい。

司会：第2期の総合戦略は今年度から始まったが、昨年度から委員の皆様にはご足労ただいて、総合戦略を策定した。その、総合戦略に基づいて、アクションプランを作成したので、今回はその説明をさせていただく。また、昨年度から12名の委員が変更となった。本来であれば一人一人に委嘱状を交付しなければならないが、コロナ対策のため、時間の都合上、割愛をさせていただく。なお、委員の任期については令和元年8月1日から令和3年7月31日までの2年間となるので、よろしく願い申し上げます。

## 2 会長あいさつ（塩谷会長）

皆さんこんにちは。コロナ禍ということで、非常に広い会場で会議をするということで大変戸惑っている。今年度第1回目の審議会ということで、新しい委員が12名いるが、よろしく願い申し上げます。

まち・ひと・しごと創生会議について、第1期の策定時から会長を仰せつかったが、何をする会議かと考えたところ、内閣では少子高齢化の中で、独自の地域プランを練ってくれということで、「まち」・・・すばらしいまちづくり、住みよいまちづくりをどうしたらできるか、「ひと」・・・新しい人・地域活性化をできる人を呼び込む施策を考える、「しごと」・・・企業誘致やいわゆる産業界の振興など、いろいろな形で考えてくれというもの。先ほど、総合政策部長からも話があったとおり、平成27年から5年間で第1期を実施し、今回が第2期となる。全国津々浦々、各市町村が独自のアイデア・施策・良いプランをどうしたらできるか、アイデアの出し合いだと考える。

どこの市町村でもやっている施策は国からの補助金もつかないと、第1期のころから申し上げてきたが、なかなか、良いアイデアというものは出てこない。

是非、新しい委員の皆様にも良いアイデアを出していただき、国からの補助金を取れる、新聞、マスコミなどに取り上げられるようなユニークな施策を議論していきたい。

年何回も開催はできないので、コロナ禍の中ではあるが、短時間のうちに活発なご意見を交わしていただき、実りある会議となるよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

司会：只今の塩谷会長の挨拶にもあったが、第1期については、地方における人口減少対策ということで人口を増やしながらまちづくりを進めるという趣旨のもと、戦略を策定した。ありとあらゆるまちづくりに関する事業を戦略に掲載したため、特徴を見出すことが難しくなってしまった点について、反省をしている。その点を踏まえ、第2期については地場産業、また企業誘致、それからコロナ禍の前であったため、インバウンドを活用した観光の充実を柱として戦略を策定している。その点を踏まえ、議事の中でアクションプランについて説明をさせていただく。

なお、第1期の各種事業の実績については参考資料1をご確認いただきたい。本日は説明を割愛させていただくが、ご覧のうえ、ご意見等を賜りたい。

それでは、議事に入る。議長については塩谷会長にお願いする。

### 3 議事 議長（塩谷会長）

説明：事務局

- ・第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略について資料1に基づいて説明
- ・第2期南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン（案）について資料2及び資料3に基づいて説明

- ・戦略策定の際は、新型コロナウイルスがここまで私たちの生活に影響を及ぼすとは考えていなかった。掲載事業は今後5年間、固定するわけではなく、その影響等を考慮して、適宜変更を加えていく。

- ・インバウンドや観光推進事業は、現状実績を求めることは厳しいが、コロナ禍においても地域の魅力等について発信する方法等について検討を進めていく。

- ・現在、国においてもコロナの影響を考慮し、テレワークの推進等、変更を加えるべきとして担当大臣に検討をさせている。県においても本年6月での改訂を検討している。本市においても、その状況を注視する中で、必要であれば改訂をするため、皆様のご協力を賜りたい。

#### 【質疑応答】

議長：資料が大変多く、理解が難しかった部分もあるかと思う。第2期総合戦略を策定した時期と今とではコロナ禍で状況が変わっているが、今の説明についてご意見、ご質問等賜ればありがたい。

A 委員：2 点伺いたい。1 点目、本文 16 ページのシティプロモーションについて、シティセールスを行う実施主体は誰か。2 点目、総務省が打ち出したスマートシティ・スーパーシティの公募について、どのように考えているか。

事務局：シティプロモーションについては現在、計画を策定している最中のため、詳細は計画策定後にお示しできると考える。また、実施主体は市及び市民と考えている。なお、市とは行政のみならず、地域、企業を含めて、南アルプス市で生活をしている方々、一人一人が誇りをもって南アルプス市をプロモートしていただきたいと考えている。

スマートシティ・スーパーシティについて、現時点での本市の情勢では、まだまだ土台ができていないと感じている。

B 委員：今回、新しい流れを作るという意味で重要な 2 点が示されたと考える。15 ページにあるように地域の稼ぐ力を引き出して、観光経営を経営視点としながら、しっかりと地域にキャッチしながら実施するという戦略と、シティプロモーションという新しい視点、その両方の視点から新しい人の流れをつくる。要するに、経営力とシティプロモーションの広報力の 2 点を推し進めて、人の流れをどのように受け入れるのか、その受け入れ態勢をしっかりと視野に入れながら、進めていかないと、うまく回らないと考える。このような考えが総合戦略の中でも考えられて行かなければならないと思うが、その点が見えない。

事務局：まち・ひと・しごと創生審議会では、産学官様々な業種の方が集まっている。DMO もあらゆる業種の方々が集まって事業を進めていくという観点からは同様であると考えている。南アルプス市では観光協会が令和 2 年度から法人化して活動を行っている。今後は観光協会がベースに DMO に近づいていく中で、観光の取り組みを進めていく。併せて、専門のノウハウを身に着けた人材の育成も必要であり、規模も拡大していかなければならないと考える。

そのようなことも含めて、現在策定しているシティプロモーションの計画の中では、外から見ている人はどのように感じているのかを推し量り、どのような情報発信をしていけばよいのかを踏まえながら、戦略に基づき次年度以降プロモーション活動を進めていく。

また、戦略の中には盛り込めなかった事業については、アクションプランに随時盛り込んでいく。

B 委員：DMO については、議会においても同様の回答であった。この総合戦略の 5 年のスパンの中で、シティプロモーションの新たな視点と、経営戦略という視点をしっかりと合体をして、南アルプス市がどのように人を受け入れる体制づくりができるか、提言と

して考えていただきたい。

事務局：1自治体がフルスペックで事業を実施していくことは困難な時代になっている。ユネスコエコパークのような枠組みの中で、人の受け入れ態勢についても広域的な連携により、活性化を図っていきたい。

C委員：説明の中に、国の政策課題の説明があったが、第1期の成果目標の検証結果はどうなっているか。それに対し、国の評価は。また、行政に対し、どのような反映がされているのか、ご教示願う。

事務局：第1期については、地方創生に資することであれば、ありとあらゆる事業が補助金の対象になるという名目で網羅的に事業掲載をしたが、大半の事業について、補助金の対象とならなかった。よって、恐らく国の求める戦略ではなかったと検証をしている。したがって今回は、産業、観光の充実という分野に絞ってまちづくりを進めていこうと戦略を作成したところである。

ただ、現時点では補助金をもらっている事業はない。策定時の主軸はエコパ伊奈ヶ湖の整備であったが、まだ事業が本格稼働していない。産業立地や地域 BWA、シティプロモーションなどは、観光庁が推進する事業での補助金が見込めるのではないかと考えている。

議長：第2期は掲載事業の絞り込みをしたが、現状、補助対象かの結論は出ていないということか。

事務局：現状、結論は出ていない。第1期から実施してきた事業については国からの補助金はつかなかったが、事業の成果を見ても無駄ではなかったといえる。言い方が悪いが、補助金目当てに戦略に掲載しすぎたため、総花的になってしまった。

D委員：シティプロモーション事業について、クラインガルテンのガルテナーから聞いた話として、県のイベントに本市も参加しているようだが、他市に比べてあまりにも寂しいと聞いている。本市の予算は1,700万円と記載されているが、他市はどのくらいの予算を使っているかご教示願う。

事務局：アクションプラン（案）に掲載されている予算は、シティプロモーションの計画策定にかかるもの。次年度以降は、実際の事業に予算が使用される。他市が移住定住に費やしているについては不明だが、今後は巻返しを図っていきたい。

議長：甲斐市は5000万円規模で県外の団体に委託し、PR活動をしている。また、受託団体が、本市の果物等の販売もしている。

北杜市は、DMOが様々な団体から多額のお金を投入し、主体となって様々な活動をしている。本市はDMOも未設置で、スタートが遅れているのが実情である。

D委員：景観等は本市のクライナガルテンが一番である。お金をたくさん使ってアピールに力を入れていただきたい。

事務局：金額については、この場でどのくらいと明言はできないが、遅れた分を取り戻せるように頑張っていきたい。

議長：コロナ禍で状況が変わっているが、具体的な事業等の見直し案は、いつ頃示す予定か。

事務局：県の動向等を踏まえながら、年度が替わってからお示しをしたいと考えている。現委員さんの体制の中で改訂を検討している。

#### 4 その他

事務局：コロナ禍の中でスムーズに審議会を開催するにあたり、事前に資料送付やご意見をうかがうために、委員の皆様のメールアドレスをご教示いただきたい。次第にあるアドレス宛に、名前を添えてメールの送付をお願いしたい。

#### 5 閉会（名取副会長）

長時間、足元の悪い中、また広くて寒い会場の中、お疲れ様でした。

地元の自治会で役員さんが自治会だよりを作成している。ゴミの出し方等の情報が掲載されたものだが、それを見ると「私はこの自治会に入っている」と実感できる。そういう風に、南アルプスに住んでいると実感できるまち・ひと・しごと戦略になればよいと考えている。

今、コロナ禍ということで、人と人が接しないようにしなければならない中、どのように支え合わなければならないか、という思いがある。どこにいても、遠くにいても南アルプス市は良いところだなと感じられるような住民が一人でも多くなるように、有意義な会議になればと思う。

本日は本当にお疲れ様でした。

以上